[1] 感冒

1 概念

感冒とは，風邪を感受することによって発症する外感疾患であり，悪寒・発熱・鼻づまり・流涕・咳嗽・頭痛・全身のこわばりといった症状を特徴とする病証である。

[西洋医学の関連疾患]

①カゼ症候群：一部のウイルスあるいは細菌による急性カタル性上気道炎の総称であり，急性鼻炎や咽頭炎の形をとることが多い。

②インフルエンザ：インフルエンザウイルスによる急性カタル炎症で，上気道にとどまらず，下気道にも感染が及び，全身症状が強い。伝染力が強くて流行しやすい。

2 病因病機

1 病因

1）主因：風邪を感受する

兼邪：冬：風寒，春：風熱，梅雨：湿邪，夏：暑邪，秋：燥邪

2）時行疫毒を感受する

3）正気不足

陽虚：風寒を感受しやすい

陰虚：風熱を感受しやすい

2 病機

1）基本病機

①衛気不足

一時的に衛気が衰弱
- 異常な気候→六淫あるいは時行疫毒の流行（衛気が相対的に衰弱）→集団発症
- 生活習慣の乱れ・寒温調節の不適切・労作過度→外邪を感受しやすい→散在的発症

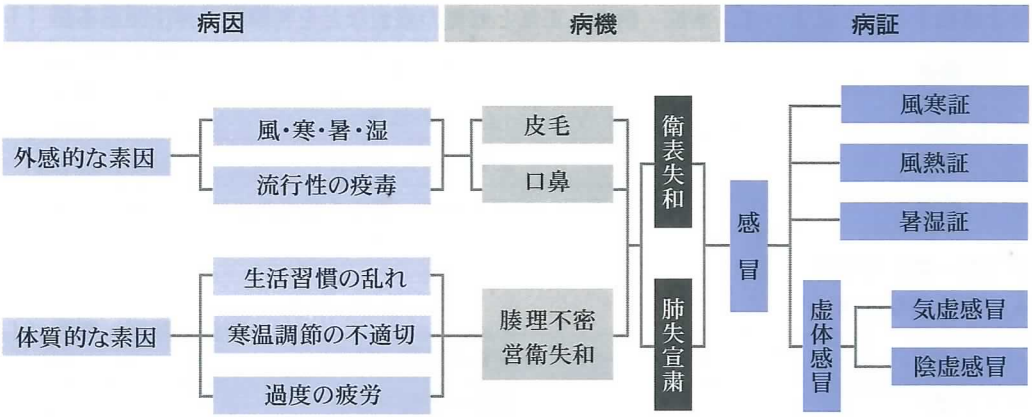
日常的に衛気が衰弱
- 体が虚弱なため衛表の防御機能が低下
- 肺経に痰熱あるいは痰湿が内蘊→肺衛の機能低下

②外邪乗襲

外邪が肺衛を侵す→肺衛不和（おもに衛表不和）

2）病位：肺・衛

3 病因・病機・病証のまとめ



3 弁証論治

1 弁証のポイント

1）風寒と風熱の弁証

	風寒証	風熱証
悪寒と発熱	強い悪寒・軽度の発熱	身熱が著しい・やや悪風
随伴症状	水様性の鼻水	黄濁性の鼻水・咽喉痛
汗	なし	少し
舌	舌苔薄白	舌苔薄黄・舌両側と尖が赤い
脈	浮緊	浮数

2）兼邪の弁証

	暑邪	燥邪	湿邪
悪寒と発熱	発熱・やや悪風寒	悪寒・発熱	発熱・やや悪風寒
随伴症状	肌膚に灼熱感・口渇・心煩・倦怠感	咽と唇の乾燥・空咳	肢体がだるくて痛む・胸悶・胃脘部の痞え・泥状便
汗	少	なし	少し粘い汗
舌	舌質やや紅・苔薄白あるいは薄黄	舌質乾燥・苔薄	舌苔白膩
脈	細数	浮	浮濡

3）表証の有無の確認

●表裏弁証について●

①表裏弁証は八綱弁証の一部である

八綱弁証とは，四診で得られた情報を分析し，陰・陽・表・裏・寒・熱・虚・実の８つの証候を概括することによって，病位・病性・正気と邪気の盛衰などを判断する方法である。

表裏	疾病の部位
寒熱	疾病の性質
虚実	正気と邪気の盛衰
陰陽	疾病の類型（表裏・寒熱・虚実を総括した概念）

②「表・裏」の意味

a．病位的な意味

表	皮毛・肌腠・経絡
裏	臓腑・骨髄・血脈

b．証候的な意味

	概念	症状
表証	表証とは，六淫・疫癘の邪気が皮毛・口鼻より人体に侵入し，正気（衛気）が邪気と対抗して現れる悪寒と発熱をおもな表現とする軽・浅の症候	悪寒と発熱・頭身の疼痛・脈浮
裏証	裏証とは，病が臓腑・気血・骨髄といった深い部位にある証候（表証を除外したすべての証候）	表証の症状以外の症状

c．表証と裏証の関係

表裏伝変	表にある邪が裏に入る	進行
	裏にある邪が表に出る	好転
表裏同病	表にある邪の一部が裏に入ったが，一部が表にとどまっている	
	持病（裏に邪がある）のうえに表邪を感受する	
	表と裏が同時に邪気を受ける	

③表証弁証の留意点

a．中医学の病位は解剖学の意味ではなく，理論上の抽象的な病位である。
たとえば，脾気下陥とは脾臓下垂のことではなく，肝気鬱結は肝臓組織の病変のことではない。

b．解剖上の体表≠弁証の表証
たとえば，皮膚の瘡瘍・痒み・色素沈着・黄疸≠表証

c．内臓の一部病変，たとえば，腸道の感染症の場合，悪寒と発熱がみられれば表証と認

められる。

たとえば，表証を伴う湿熱痢→葛根黄芩黄連湯

d．表証診断の根拠:新しく同時に発生した悪寒と発熱（一分の悪寒には一分の表証があり）

2 治療原則

1）基本原則：解表達邪

2）具体的な原則：

①風寒→辛温解表

②風熱→辛涼解表

③暑湿→清暑祛湿解表

④虚体感冒→扶正解表

3 証治分類

1）風寒・風熱・暑湿

	風寒証	風熱証	暑湿証
特徴的な症状	強い悪寒・軽度の発熱・無汗	発熱・やや悪風・少汗	身熱・やや悪風・肢体がだるくて重い・胸部と胃脘部の痞え
症状	頭痛・四肢がだるくて痛む・水様性の鼻水・喉の痒み・咳嗽	頭の脹痛・咳嗽・咽喉が腫れて痛む・鼻づまり・黄色い鼻水	やや発汗・頭が重くて痛む・尿少で黄色・泥状便
舌	舌苔薄白	舌辺尖紅・舌苔薄黄	舌苔薄黄膩
脈	浮緊	浮数	濡数
病機	風寒の邪が肌表を束縛して，肺気の宣発機能が失調する	風熱の邪が表を侵して，衛表が失調し，肺気の宣発粛降機能が失調する	暑湿の邪が表を傷つけ，衛表が不和となり，肺気の清粛機能が失調するとともに，湿熱の邪が中焦を阻害し，気機不利となる
治法	辛温解表	辛涼解表	清暑祛湿解表
方剤	荊防敗毒散	銀翹散	新加香薷飲

2）虚体感冒

	気虚感冒	陰虚感冒
特徴的な症状	平素より全身がだるい・カゼを引きやすい・悪寒が比較的重い・発熱	平素よりほてりがある・発熱・やや悪風寒・少汗
症状	無汗・頭痛・肢体がだるい	空咳・痰少
舌	舌質淡・苔白	舌質紅・苔少
脈	脈浮無力	脈細数

	気虚感冒	陰虚感冒
病機	平素より気虚・衛外不固であるところに風寒の邪を感受する	平素より陰虚・衛外不固であるところに風熱の邪を感受する
治法	益気解表	滋陰解表
方剤	参蘇飲	加減葳蕤湯

加減葳蕤湯（『通俗傷寒論』）：玉竹，葱白，桔梗，白薇，淡豆豉，薄荷，炙甘草，大棗
銀翹散（『温病条弁』）：金銀花，連翹，淡豆豉，牛蒡子，薄荷，荊芥穂，桔梗，甘草，竹葉，鮮芦根
荊防敗毒散（『外科理例』）：荊芥，防風，羌活，独活，柴胡，前胡，川芎，桔梗，枳殼，茯苓，甘草
新加香薷飲（『温病条弁』）：香薷，鮮扁豆花，厚朴，金銀花，連翹
参蘇飲（『太平恵民和剤局方』）：人参，紫蘇，葛根，前胡，半夏，茯苓，橘紅，甘草，桔梗，枳殼，木香，陳皮，生姜，大棗

4 予防とケア

1．天候の変化に合わせ，着るものや就寝時の掛け布団を調節する。
2．適当な耐寒訓練を行う。
3．睡眠を十分にとる。
4．補虚固本の治療を行う。